
影墮ち

坊主日影

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

影堕ち

【ZPDF】

Z5227D

【作者名】

坊主日影

【あらすじ】

何処にでもいる高校生シンゴと幼い頃からの付き合いのアコと向
気ない関係がある変化をする…

過去と直面の過ち

（…「…から話すか。）つとシンボは話を切り出す。すると、泣きじやくつた顔をこすりながら向けるアコ。

アコは、

「少し整理がついてないから」「つとまた泣き出した。
また、始まつた…。ヒシンボはため息を一つ入れて自分の部屋の天井を見上げた。

俺の名前は井上 進吾。何処にでもいる「ぐ普通の高校生。そして、今日の前で泣いているのは、吉田 鮎。アコとは幼い頃から仲が良く家もすぐ向かい側である。

に、してもさつきから泣いてばかりなので、しびれを切らした俺が「何があつたかはまず教えるよなあ」つと急かすよう言つた。アコは、鼻をすすりながら話始めた。

「私、好きな人がいたの。で、その人とは結構遊んだりして…ある日向こうが急に私の体とかキスとかしてきて…」「つとそこで言葉をつませた。俺は、

「で、どうしたん?」つとそっけなく聞いた。再びアコが話始めた。「それで、私そのまま受け入れるがまましちゃつたんだけど…」と言つたので、俺は、

「良かったやん」と言つたかったがまだ先があるらしいので黙つて聞いた。

「だけど、後で考えたけど向こうは本当に私の事好きなのかなって…」と言つた泣き出した。

つまり、いうゆうことだ。受け入れるがままたのはいいが肝心の言葉がないのでもしかして遊ばれてるかもしれないヒアコは不安になつてゐるらしい。それで、俺の所に泣きに来た訳である。しかし、俺はその人がどんな人か知らないのでなんとも良いようがなかつた。俺は

「本人に直接聞いてみた?」つとアユに聞いたが、アユは首を左右にふつて

「連絡したけどでてくれない」つと言った。俺は、あ、遊びやん!つて確信したがアユの前ではとてもじやなく言えないでの。

「そつかあ、それじゃ不安になるわ」つと同情のセリフを言ったが、本心は（また、面倒な事に巻き込まれた）と思っているが、アユだけはどうしてもほつとけなくなつてしまつ俺がいつもいた。昔から俺はアユの尻拭いをさせられてたが内心苦ではなかつた。高校はお互いに違うので最近はめつきり会わなくなつたがこうして改めてアユを間近に見ると女の子なんだなあつと異性として見てしまう。しかし、アユは決して要領が悪い奴ではなかつた。ガキの頃は俺が泣いてた時にはよく慰めてくれたし、小中は勉強は普通に出来たしスポーツも割と普通にこなしていた。一方の俺は勉強やスポーツはあまり上手くできず取り柄はこれと言つてなかつた。しかし、アユのお世話焼きはベテランだつた。（つと勝手に俺が決めているだけ）

つと、思つてるとアユが

「どうすればいいかな?」つとまた難しい事聞いてきた。俺は「とにかく今は焦つて変な決断するよりは待つて様子を見れば?」つと説いた。

更に、

「アユはその人の事好きなんだろ?」つと聞いた。アユは「うん」と頷いた。

「なら、信じて待つてみたら」とつけたした。その日は、アユをなんとか説き伏せ家に帰らしたがしかし：

改めて考えてみるとアユが可哀想になつてきた。そしてどうぞとしれない男に憤りを覚えたが俺が冷静にならなきやつと思つている内に寝てしまった。そして、その日は無駄に考えたせいか疲れたらしく何もせず寝た。しかし、数日後……新たに面倒が起きた…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5227d/>

影堕ち

2010年12月30日19時46分発行